

# 佐藤勇 雑感

19年11月 2日更新

## 市政と社会と

平成19年9月に、18年度決算・要するに新市行政執行しての初めての決算がおこなわれました。

**歳入**が約510億8千万円、自主財源比率が24.4%約124億円、そのうち市税が76億5千万円ほどです。

依存財源比率が75.6%で約385億円、うち地方交付税は、3.3%の前年度比減で186億円、歳入構成比率は36.5%となりました。

また、市債と過疎債（市が18年度に借り入れた借金）88億2千万円+11億3千万円で、約100億円弱構成比17.4%程であります。

また市税の収入未済額（18年度中に徴収出来なかった金額）が6億9千万円、市税の不能欠損額が、5千万円（徴収不可能と判断された金額）。

合併特例債（対象事業費の概ね95%充当出来、さらにその70%が普通交付税に算入されるもの）は約20の事業に17年度より11億4千万円増の38億7千万円となった。

**歳出**約502億7千万円の主なものは総務費90億円、民生費95億円、土木費75億円、農林水産費41億円、教育費は51億円、公債費は（18年度に返済すべき借金額）約80億円、教育費が51億円、消防費17億円、商工費14億円となったものです歳入歳出とも概算です。

尚この歳出のうち性質別では、人件費が99億円、物件費は59億円、普通建設事業では119億円、他16事業に於いて26億円の繰り越しをしております。

年度の利子分だけで、13億7千万円もあります。

市の**累計市債総額が約1,260億円**にもなります。

このような中で各部署の来年度の予算要求が成される事になります。

これまでの計画通り、事業が遂行されるかどうか危ぶまれます、実質公債費比率が18,3%を超え今後起債（借金をするときには）には県知事の許可が必要に成りました。

シンクタンクは、幅広い視野がややもすると退化している場合が多いと感ずる人が沢山いたら大変だ、ただひたすら、首長の指示通りつつがなく定年を迎える職員はいないと思うが、単に予算を組み・事業進行進捗させて行く事が使命と見受けられるとしたら公僕としての責務はどうなるだろうか、本当に数字に明るい見通しが聞くベテラン行政マンなら首長に役職を掛けてでも、もの申す職員がおったならば夕張もあそこま

では、至らなかったと思えてならない。

●地方の一自治体の議会は、この程度の規模の市区町村であれば行政の唯一のチェック機能としての役目が果たす事が至上命題である。

どんな場合であっても人数の多い集団優先あるいは多数決原理だけでは市民の為にならない事も往々にしてあるということである。

合併以後市行政を遂行して来たが、行政側の不首尾な点が露出する、単町村の時にはあり得ない行政のミスが連発する事もある、これは職員個々がどうこうとかの次元では無く、これまでの全郡のリーダー的存在の旧市政のあり方に課題がありそうに思えてならない、それは議会の一特定会派が決定的人数の多い場合である。

執行部側は、多数の政策集団にさえ合サインの印が見えさえすれば、議会は通過したも同じだとの認識が全議会に対する軽薄さ、甘えや傲慢を引き起こす原因ともなる。

簡単に会派制の弊害もあるのではと思う、馴れ合い的習慣が身に付き、議会全体よりも特定の集団に気を配り、全体協議会などの前にある程度感触を得れば目的達成、協議会は形式的となり時間切れとなり多くを議論できないまま、次の機会にということになり期間を置いて前回の協議会です承されたとなる。

議会の権能は弱く成り、ひいては議会の質低下、要するに議会が軽く扱われる原因がそこにあるのだ、これは職員でも無く首長でも無く議会議員全員の責任と言えよう、たとえ政策集団は同じであってもダメはダメ良は良と正義を貫く決意が必要である、ここでいう正義とは、市民あるいは全体の恒久平和と利益の為に決断する勇気であると思うのであります。

会派統一しなければならない、グループとしての暗黙の取り決めがある、ある程度の部分まではやむ無く全体の為良しとするが、社会通念・住民感覚を基本とした統一意見でなくてはならないと思います。

一部同僚議員をかばうようなあるいは、自己中心的な考えを会派のまとめとしてする役員会・リーダーだとしたなら真の行政のチェック機能としては疑問が残る。

その地域地域の社会構造なども考慮し、全国自治体では、どうのだけでは無く政治倫理の確立なども考え誤らないようにしなければならないとおもいます。

また、議会制民主主義政治は多数決原理を原則とするが過半数を超える多数集団が必ずしも全てでは無い、少数の意見が合えば連携し、互角で議論し合い多数集団の少なくとも独走にはブレーキがかかる、いま各自治体は財政難に喘いでいるおりがら議会間でも牽制し合いながら絶対に行政に馴れ合い、べったりは避けなければならないと考えます。

議会の活性化とはそう言うものではないでしょうか、常に市民は何を望んでいるか主人公は市民であります。